

スペシャル対談

第二回「観光振興を考える」

富士北麓・道志の観光振興に情熱を注ぐ白壁賢一が、観光のエキスパートと現状や課題、展望を縦横に語り合った。



お気軽にご意見をお聞かせください。



「白壁賢一」で検索してください!

白壁賢一

検索



04

Theme
「明日の富士北麓観光」

大きく変化する
時代の中で未来を
切り開くには

白壁 山梨県の観光、特に富士山を中心とした富士北麓の観光は新しい時代を迎えようとしています。近々には富士山静岡空港も開港して、韓国や中国から定期便が乗り入れます。富士山を指して多くの外国人観光客がやってくるでしょう。中部横断自動車道が全線開通する日も、そう遠くありません。さらにリニアがあります。郡内では遠い世界の話のように感じる人がいるかもしれませんが、そんなことはありません。リニア駅がどこに出来るかはともかく、リニア駅とのアクセス道路を整備することで富士北麓にも国内外から今以上に多くの観光客を期待できます。リニアは山梨県にとってエポックメイキングなことです。

野田 リニアは、インバウンドを含めて非常に大きな意味を持つと思います。

白壁 豊かな自然は山梨の誇りですが、獣道しかないような場所には観光客はやつて来ません。やはり道路網の整備が不可欠です。道路をきちんと整備することは地域住民の暮らしに役立ち、安全につながることはもちろんですが、観光客が安全安心して滞在する上で必要です。もちろん自然保護は大事ですが、県外から山梨に流れ込んでくるルートを整備していかなければなりません。そういう状況の変化を踏まえて、

新しい時代の富士山を中心にした富士北麓観光はどうあるべきか。その一つとして先般、私を含めた富士北麓・東部地域の県議8名で「富士山新交通システム等の勉強会」を発足しました。富士スバルラインを活用し、環境負荷が少ない、観光立県にふさわしい新たな交通システム導入を検討していく勉強会です。冬季閉鎖もなく、通年で富士登山ができるようになれば、世界遺産登録と相まって国内外からの観光客は間違いなく富士山を目指すことになるでしょう。確かにクリアしなければならぬ課題は山積しています。しかし、課題というのはクリアすべきものです。夢は言葉にし、実行に移すことに意味があると思います。環境に配慮した上で、一年中いつでも登ることが出来る富士山。そのための新しい交通システムを考えていこうと思っています。

野田 課題として何があり、それは実現可能なかどうか、クリアしなければならぬことはあるでしょうが、研究してみることはとても大切なことだと思います。いつか実現して、あの時代に研究していたからだということになるのかもしれない。

白壁 未来を切り開いていくには知恵を絞り、汗をかくことが必要です。先ほどお話ししましたが、観光は総合的な産業です。富士河口湖町の大石地区ではサクランボやブルーベリーの観光農園が人気を集めています。農業と観光のコラボレーションとでもいうのか、そここの結果が出ています。また最近ではジビエの取り組みも始まっています。

地元で採れたおいしい食べ物、おいしい水、澄んだ空気など、うまく利用していくことだと思います。

野田 食べ物というのは観光にとって重要なファクターです。多くの人が訪れる観光地には、必ず地元の食材を使ったおいしい食べ物があります。今以上に工夫することが必要になつてくると思います。

白壁 安からう悪からうではダメなんです。あのホテル旅館に行けば、一年中で一番おいしい時季に「あの料理を食べられる」とそういうことが大事です。小さな部品が集まって、大きなものをつくり上げていくんです。

洞爺湖サミットが開催されたサ・ウインザーホテルにフランス料理レストラン「ミシェル・トウヤ・ジャボン」の日本唯一の支店があります。ミシュランの三ツ星ですが、そこは地元の食材をふんだんに使ったまさにジビエ料理で、日本中からそれを目当てに観光客が来ています。こういうところも必要だと思います。

野田 同時に、先ほど双海町の例を挙げたように、子どもたちが誇りを持つことができるような地域、住民が誇りを高めていくような地域づくりをしていくことです。そのことをしっかりと意識することが大事なことではないでしょうか。

白壁 知恵を出し合えばいろいろな可能性が開けてきます。一つひとつの積み重ねがブランドを築いていくのです。

富士北麓をクオリティの高い観光地に築き上げることで、山梨県の観光を総体的に底上げできると確信しています。

あなたのご意見をお聞かせください。

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津1505

✉ Shirakabe@kawaguchiko.ne.jp

富士北麓・道志の観光振興に情熱を注ぐ白壁賢一が、 観光のエキスパートと現状や課題、展望を縦横に語り合った。

01

Theme
「動き始めた観光推進機構」

多様化するニーズ。
どう活路を
開いていくか

白壁 スタートしたばかりでお忙しいでしょう。山梨の観光と物産の振興を担う、大変重要な組織だと認識しております。

野田 これまで個別に活動してきた「県観光物産連盟」「大型観光キヤベーン推進協議会」「やまなしインバウンド観光推進協議会」の3組織を統合して設立しました。事業を効率化することで、効果的な業務ができるようになります。①着地型旅行商品の造成・販売促進②国内外のプロモーション活動の実施③観光人材の育成④MICEなど新しい団体旅行誘致⑤物産販売仲介の充実―の5本柱です。スタッフは約20人。8月からは山梨県庁西別館(仮称)1階が事務所になります。

白壁 山梨県を訪れる観光客は年間どのくらいですか。ここ数年、さまざまな仕掛けを用意し、知事を先頭に国内外に「山梨を」「富士山」を発信していますが。

野田 平成20年度調べで約4750万人でした。この5年間で700万人近く増えています。大河ドラマ「風林火山」や大型観光キヤベーンの効果でしょう。観光客のうち富士北麓・東部地域が約37%を占めています。富士北麓は山梨県の観光の中心的な地域といっています。

白壁 観光客の増加は地元においても感じるのですが、かつてよく見かけた団体旅行は少なくなっていますね。企業の研修とか…。ずいぶん様変わりしています。

野田 ご指摘の通りです。山梨県を訪れる観光客の旅行形態を分析すると3人以下が60%近くを占め

アジアへの発信。
それだけで
勝ち抜けるか

白壁 富士北麓、特に富士山を訪れる外国人の中でも中国からの観光客が多くなりました。山梨県としても現地向向いて積極的にPRをしている。何か今度、上海で観光見本市のようなものがあると聞いていますが、日本を、山梨を売り込むチャンスだと思います。

野田 中国の方々も、太平洋側に行く、いわゆる「ゴールデンルート」に飽き始めていると聞きます。昔からのルートが変わってきている。われわれは、関西空港や中部国際空港から中央道を走り、岐阜、長野を通って最終的に富士五湖、富士山を目指すルートを推奨しています。その中には八ヶ岳もあり、石和温泉もあります。自然環境が素晴らしい中央道の山岳ルートは、企画の立て方によっては大変魅力がある商品になるのではないかと思います。機構として大いに売り込んでいくつもりです。

白壁 ぜひ魅力的な商品売り込んでほしいと思います。中国の自然の雄大さは、日本とは比べものになりませんが、日本といえば富士山です。中国の観光客は日本の象徴である富士山を見たい、できれば登ってみたいと思うでしょう。ただ、中国をはじめアジアの人たちへの売り込みは必要だとは思いますが、いつまでもアジアというわけにはいかないでしょう。飽きられてしまう日がくると思うのです。

野田 当然そうです。ただ、中国には富裕層といわれる人たちが1億

旅行が個人・小グループ化しています。こういう動向にどう対応していくか。また、数%にまで落ち込んだ会社絡みの団体旅行や研修などをどう誘致していくか。機構設立の大きな目的だと思っています。

白壁 宿泊滞在型観光地づくりも大きな課題です。何日間か山梨で過ごしたくなるような、魅力ある企画が必要ですね。

野田 旅行企画には、エージェントが企画して、旅行者を募る目的地に送り出すものと、オプショナルツアーのように現地での企画を立てる、着地型があります。機構としては、この着地型商品の造成をすぐにやらなければなりません。機構では5月中に旅行業の資格を取得し、6月から商品の販売をする計画です。私が知る限り、県レベルで商品を開発し、しかも旅行業者として販売するのは山梨が全国で最初ではないでしょうか。トップランナーとしての自覚を持って業務を行っていくつもりです。

白壁 以前、議会で質問したことがあるのですが、日本で開催される国際コンベンションは伸びているのに、山梨県内で開催される国際コンベンションは激減しています。平成17年はたつた1件になってしまいました。国際コンベンションはビジネスと観光がセットになっている場合が多く、参加者は一定期間滞在しますから、開催地だけでなく周辺市町村への経済効果も大いに期待できます。富士北麓は日本有数のリゾート地で、東京に近い地の利を生かして、誘致を積極的に進める必要があると思います。

野田 機構の業務として挙げた5本柱の中にある「MICEなど新しい団体旅行誘致」がまさにこれです。コンベンションの誘致促進、開催支援などに積極的に取り組んでいます。

人以上もいます。中国には日本に、そして山梨に来てもらう層がまだまだ残っています。開拓の余地は十分にあると思います。韓国への売り込みにもまだ期待が持てます。韓国にも温泉地はありますが、日本のように内風呂があつて、しかも部屋からの眺めがいい所はなかなかないところで、潜在的なニーズがあるといえます。富士北麓ではそれができます。これも企画によっては多くの観光客を呼び込める可能性があるのではないのでしょうか。

白壁 アジア圏は人口も多いし経済発展もしていくでしょうから観光客は期待できるのですが、それ以上に、欧米の富裕層を呼び込める観光地づくりが必要だと考えています。リュックサック二つ担いでユースホステルに泊まるような層もいいのでしょうが、リッチな層が来て宿泊滞在するような観光地、高級リゾート地にしていくことだと思うのです。

野田 要は富士山、山梨という観光地のステータスを上げていくことが重要だと思います。世界中が目向けるような観光地・山梨にしたいものです。

白壁 この前、沖縄県に視察旅行しました。国内だけでなく中国や台湾からも多くの観光客が来るのですが、観光課の説明では、これからは欧州、特にドイツをターゲットに売り込んでいくそうです。なるほどと思います。人と同じことをやっていたのではだめであつて、少し先を考えた戦略を立てなければ競争を勝ち抜くことはできないのではないかと思います。

02

Theme
「クオリティの高い観光地」

リピーターが増える
観光地。
何が必要なのか

白壁 山梨県の魅力とは何ぞやといえは、いろいろありますが、やはり自然でしょう。特に富士北麓・東部地域には手つかずの雄大な自然が残

り、富士山があり、あるいは富士五湖があり、名水で知られる忍野八海や道志川がある。この山梨の自然の素晴らしき、潜在的資源をいかに売り込んでいくか―観光推進機構が、良い商品を開発し販売してくれることを期待したいですね。

野田 山梨県を訪れる観光客の30%近くは、豊かな自然を目的にしています。富士北麓のエコツーリズムは平成16年度から地域指定を受けてやっているわけですが、年間10万人くらいに上ります。

白壁 「環境」は時代のキーワードです。関心も高い。エコツーリズムやグリーンツーリズムなどに参加する人が増加しているのはよく分かります。私の地元でも、いろいろな人、さまざまなグループが知恵を絞ってイベントやツアーを考え、頑張っています。ユニークな企画もたくさんあります。

野田 いろいろな企画が点として存在している嫌いがあります。これらの点と点を結び、線にして、面にしていくのがわれわれの仕事だと考えてい

人と同じことをやっていったのではだめ。
少し先の戦略を立てる。――白壁

ます。例えば青木ヶ原樹海と御師の家、富士浅間神社を結びつけるコースを設定し、宿泊を絡めるようなことも考えられます。ジビエ料理を取り込んでもいい。こういう商品が売れたら、観光地を形成するさまざまな業界にいい影響が出てくると思いますね。

白壁 開発した商品は、どのように販売していくのですか。

野田 一つは「富士の国やまなし観光ネット」を構築し直して商品を掲載し、観光客に直接買っていたこと。もう一つは、大手のエージェントに商品を加工してもらって販売する方法があります。県内にはいろいろな資源、例えばエコツーリズムやワイナリーリズムなどの商品がたくさんあります。これらをコーディネートし、ネットワーク化し、商品として販売します。それを地域に下ろしていくのも、われわれの重要な務めです。

白壁 機構が核となつて、地域の観光を引っ張っていくようになってほしいですね。県内の各観光地が切磋琢磨しながら、山梨全体の観光振興を図ることができれば素晴らしい。

私はかねがね、観光というのは総合産業だと考えています。経済活動という捉え方だけではなく、教育も文化などいろいろな要素の集合体である。

野田 愛媛県の双海町は「しずむタ

日が立ちどまる町」として年間55万人が訪れる観光地になりました。これをプロデュースした町の課長にいい観光地になるためには何が必要か尋ねたことがあります。課長が言うには、町を訪れた人の子どもたちが元気に挨拶すること、こみが落ちていない、家々の庭にさりげなく花が植えてあること、できれば大勢の人が使うトイレがきれいであることを挙げていました。そういうクオリティの高い地域をつくっていくこと、そしてそれが訪れた人たちに伝わると、リピーターも増え、いい観光地になっていくのだと思います。

白壁 そうですね。私の地元である富士北麓地域でも各湖で定期的にクリーン作戦が行われ、昔と比べて湖は格段にきれいになっていますし、道路沿いには四季折々の花が咲いています。景観にも相当気を遣うようになっています。クオリティの高い観光地にしていくなには地域が一体となつて取り組んでいくことが絶対必要です。

野田 北麓の人たちは富士山とともに暮らしています。世界中から富士山を、また雄大な自然を目指して多くの観光客が訪れるのですが、自分たちが生活しているところは富士山がある。それを誇りとする意識を醸成していくことがとても大事だと思います。

世界中が目向けるような
観光地・山梨にしたいものです。――野田

03
Theme
「インバウンドへの戦略」



やまなし観光推進機構理事長

野田金男

【のだからねお】

1948年生まれ。山梨県観光部長、企画部長などを歴任。09年4月に「やまなし観光推進機構」理事長に就任。



山梨県議会議員

白壁賢一

【しらかべけんいち】

1960年生まれ。93年に33歳で旧河口湖町議に初当選、3期務める。2003年に富士河口湖町議に当選し2期。この間、議長などを歴任。07年に山梨県議会議員に初当選。自由民主党輝真会に所属。